

製品名: ULK1 (リン酸化 Ser757) ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21107

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	ホスホ
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:113kD;Observed MW:150kD

抗原情報

遺伝子名	ULK1
別名	ULK1;KIAA0722;Serine/threonine-protein kinase ULK1;Autophagy-related protein 1 homolog;ATG1;hATG1;Unc-51-like kinase 1
遺伝子 ID	8408.0
SwissProt ID	O75385
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

背景

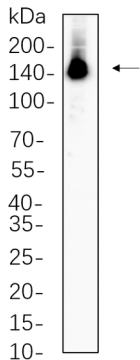
細胞局在: 細胞質、細胞質ゾル。プレオートファゴソーム構造。飢餓状態では、主に細胞質の一部を隔離する隔離膜を表す斑点状の

構造に局在し、その結果オートファゴソームが形成される。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: 軸索の成長に関与する。小脳顆粒細胞の神経突起伸展に重要な役割を果たす。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。APG1/unc-51/ULK1 サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: GABARAP および GABARAPL2 と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現する。成人の以下の組織で検出されます: 骨格筋、心臓、脾臓、脳、胎盤、肝臓、腎臓、肺。

研究分野

-

画像データ



NIH-3T3 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、メンブレンを ULK1 (リン酸化 Ser757) ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロッティングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。